

国際学会を通して

情報工学府情報科学専攻修士2年 牧 允皓



はじめに

平成25年1月29～31日にタイのバンコクで開催された国際学会 Fourth International Conference on Intelligent Systems, Modeling and Simulation (ISMS 2013) に参加し研究発表を行いました。

国内の学会では何度か発表しましたが、国際学会はこれが初めてのことでした。初めての国際学会を通して体験したこと、感じたことをここに記し、少しでも皆様の刺激になればと思います。

研究発表の概要

私の研究は感染症拡大の数理モデルが対象です。様々な手法やアプローチがありますが、特に感染者数から、今後の広がりを予測することに着眼しています。人類の歴史を遡っても明らかですが、これまで多くの感染症が発見されています。SARS、新型インフルエンザ、口蹄疫など、それらによる被害は計り知れません。感染拡大の挙動を知ることとは、ワクチンの生産量、移動制限など様々な対策に有用でしょう。

今回の発表では、SIRモデルというモデルを拡張する適用手法、それに関する問題を報告しました。元来このモデルは数値計算によるシミュレーションを実現するモデルですが、この拡大シミュレーションの信頼性、つまり精度保証に関するものです。

国際学会を通して

意思疎通の難しさ、これを改めて感じました。旅行で遭遇するような日常会話とは違い、前提知識の確認をしながら質疑応答をこなすことが予想以上に難しく感じました。覚えていた発表原稿を違う視点から表現し直すことに戸惑い、伝えたかったことの半分も伝えられない悔しさを覚えました。研究の過程で、学術的な深さや新規性といのは常々意識していても、最後の伝える段階で、評価が下るということを、身をもって学びました。

一方で、タイでの移動や宿泊は英語が通じてとても快適でした。食事をしたり、電車に乗ったりすることに不便を感じることもなく過ごせ、言語の大切さを再確認できました。

また、これまで東南アジアにもついていたイメージに反し、高層ビル、車社会ということに驚きました。隣接国に渡航した際の経験から想像していたものとは逆のものが多く、自分の先入観に恐怖したと、日本人も頑張らなければという刺激ももらいました。いずれ多くの国を訪れ、



Ratchaprarop 駅周辺 (バンコク)

視野の広い人間になろうと感じさせられました。

おわりに

今回の発表を通し、多くの感動と教訓を得ることが出来ました。奨学金を援助していただいた明専会、論文執筆・発表準備の指導及び助言をしていただいた廣瀬英雄教授、並びに研究室のメンバーに感謝と敬意を示すとともに、九州工業大学の更なる発展と皆様のご健勝をもって報告とさせていただきます。